

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成28年9月)

### ～気温、天候要因の影響などで現状判断は低下～

- 景気ウォッチャー調査・9月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月連続で低下、先行き判断は3か月連続の上昇となった。
- 足元の状況は、残暑の影響が秋物商品の売行きに出ているほか、台風の上陸を含め、例年よりも雨が多かったことから、外出の減少などにつながり、百貨店、スーパー、レストランなどの幅広い業種に影響が出た。
- また、インバウンドによる消費については、百貨店で前年割れの動きが続いているほか、ホテルからも稼働率の低下に関する声が出ている。
- 一方、先行きについては、全体として不透明感が強く、先が読めないとの声が多いなか、今冬は昨年の暖冬傾向から一転して寒くなるとの予報が出ていることから、百貨店を中心に、季節商品の販売増加に期待が集まっている。

#### 「残暑、気温」関連のコメント(現状判断)

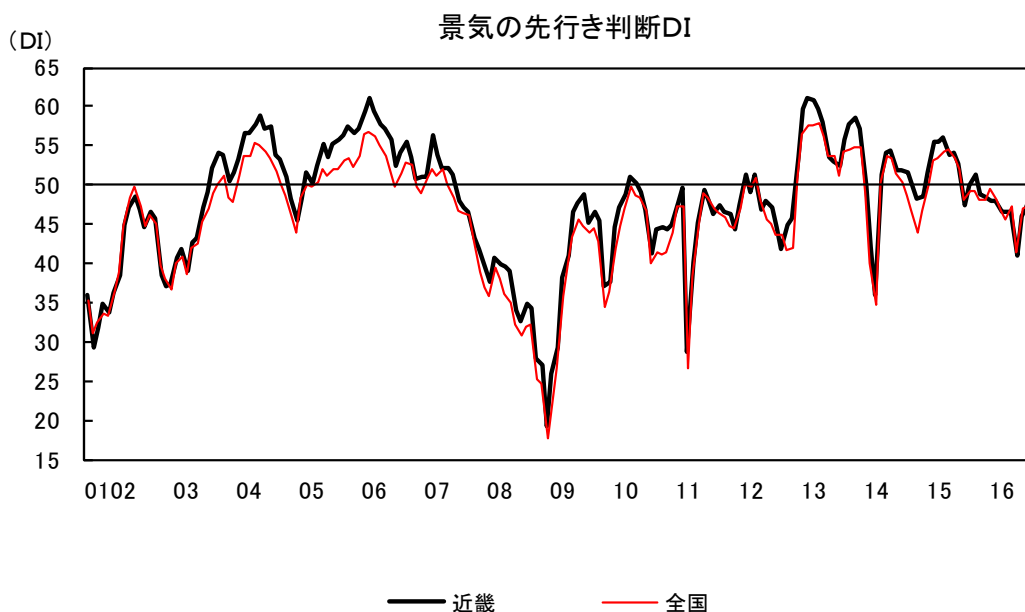
家計動向関連	やや良くなっている	一般小売店〔時計〕(経営者)	・月が変わっても日中の暑さは変わらないが、朝晩の暑さは少し和らぎ、客足が少し戻ってきた。相変わらず時計自体は売れていないが、夏の暑さで傷んだ時計バンドの交換が目立った。単価自体は高くないものの、時計の修理と共に今月の売上の下支えとなっている。
		百貨店(販売推進担当)	・9月に入り、秋物衣料品の動きは前年の80%程度しかみられないが、朝晩の気温によっては大きく動く場合もある。また、秋物の打ち出しそのものには、客が敏感に反応し、来客数は前年を上回っている。
		コンビニ(店員)	・暑さで飲料が売れているほか、外国人観光客が増えている。
	変わらない	百貨店(マネージャー)	・直近の売上は、食品、食品以外共に、天候の影響もあって非常に苦戦している。一方、ファッション部門では気温の高低差が出てきたものの、秋物の実需品の動き出しは鈍い。また、例年は一部でみられる冬物の先買いが、現状ではほとんど見受けられない。
		百貨店(商品担当)	・気温が高く、秋冬物の動きが鈍かったほか、月半ばの台風の影響で来客数が伸びず、全体的に厳しい状況である。台風の後には気温が下がって来客数が持ち直し、少し回復しているが、目標には届きそうにない。
		百貨店(売場マネージャー)	・残暑の影響で、秋物衣料品の動きが前年の9割と鈍くなっている。化粧品は微増となったものの、ラグジュアリーブランドは微減である。
		スーパー(店長)	・今月は高い気温により、衣料品を中心とした季節商品が大苦戦している。食品は前月と同じような動きであるため、基調は変わらないと感じる。このまま高い気温が続くと、秋物商戦が飛んでしまうので、利益への影響は大きい。
		スーパー(社員)	・今月は天候の悪い日が多く、日ごとの気温の変動も大きくなってきた。これが客の動きに大きく影響しており、来店が集中する日や時間帯と、来店が少ない時との差が大きくなっており、店頭での売上の予想が難しくなっている。
		美容室(店員)	・季節が変わっても暑さが続いているせいか、旅行や洋服の購入に対して、消極的な様子である。
	やや悪くなっている	百貨店(営業担当)	・天候不順や気温の高さなどで、ファッション商品が動かない。
		百貨店(営業担当)	・猛暑も一段落し、富裕層の優良顧客は高級ブランド品や美術品を買うよりも、旅行やゴルフなどにお金と時間を使う傾向が強まってきている。
		スーパー(店長)	・残暑が厳しく、秋物の動きが悪いことも景気下振れの要因となっているほか、食品を含めた客単価の下落がみられる。
		スーパー(企画)	・8月までは食品の1品単価が下落していたが、9月に入って、台風の影響などで相場が上昇し、買上点数が前年割れしている。ただし、月下旬には季節が戻って少し暑くなったため、衣料品の季節商品の動きが鈍い。
		一般レストラン(経理担当)	・消費環境の悪化に加え、台風や猛暑といった異例ずくめの天候による不安要素もあり、やや悪くなっている。
		タクシー運転手	・夏場が過ぎて暑さが和らいだほか、以前からの傾向も影響している。

家計動向関連	悪くなっている	百貨店（販促担当）	・今月は大雪であった。暑さが続かなか、その影響が強くて、衣料品を中心に秋物が動かない。また、台風を含めた雨模様の天候により、来客数にも影響が出ている。高額品も目立った材料はなく、全般的に非常に厳しい推移となっている。
		百貨店（服飾品担当）	・9月に入って、初旬の気温が前年を大きく上回るなか、秋物衣料は婦人や紳士、子ども服で前年を大きく割り込む結果となった。靴や帽子などの雑貨類も厳しく、都心店舗だけでなく、郊外店舗でも15～20%下回る形となっている。一方、食品や化粧品、ブライダル商材などのアクセサリはほぼ前年並みの数字であるため、気温の影響だけではなく、消費が必需品を中心とした堅実な購買スタイルに変わっているものと思われる。
		百貨店（マネージャー）	・セール以降、入店客数や客単価の悪化傾向が続いている。9月に入って気温が高いこともあるが、ファッション、消耗品雑貨の苦戦がより一層顕著である。営業施策を強化しても客に伝わらない状況が続く、買い控えとは異なる反応がみられる。
		百貨店（マネージャー）	・9月は残暑で最高気温が平年よりも5度近く高い日が続く、買上客数が前年よりも10%以上減少した。特に、紳士服が18%減、ビジネス需要のスーツやネクタイ、長袖ワイシャツなどの秋物衣料が大幅に減少している。一方、インバウンド消費の減少で上半期は苦戦が続いた高額品の時計については、富裕層を中心に回復基調となり、単価も20%程度上昇している。
		スーパー（店長）	・今月は特に気温の高い日が多く、秋物が不調である。さらに、競合相手との価格競争で、利益が圧迫された状況から脱していない。
企業動向関連	変わらない	食料品製造業（営業担当）	・残暑が続いており、前半は飲料水の売上が伸びたが、雨が多かったせいか、後半には伸びが止まったように感じる。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・今夏は、大阪城公園での特設プールなどの期間限定イベントによって周辺駅の店舗は大きくにぎわった。また、猛暑も手伝って飲料を中心に売上が伸びた。一方、免税店舗などは大きく売上を下げている。化粧品などの爆買はほぼ皆無となっている。
	なっている	食料品製造業（従業員）	・雨が長く、天候不順の日が多かったせいか、思ったほど売上が伸びなかった。気温が暑かったり、寒かったりしたことも原因と考えられる。

### 「今冬の低気温」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・年末にかけて、天候頼みの防寒用品の動きに期待している。
		百貨店（販売推進担当）	・前年の暖冬に比べて、今年は寒さが厳しくなる予想である。アイテムではコートが2年前並みに売れることを期待しているが、冬物衣料の動きは少なくとも前年を上回ることが期待できる。
		百貨店（マネージャー）	・昨年は暖冬で、コートやブルゾン、マフラー、手袋などの冬物商品の売上が、前年比で30%以上の減少となった。今年の冬は例年よりも寒くなるとの予報が出ているため、昨年の反動増も期待でき、2年前並みの商品を確保するようにしている。また、国内富裕層の消費も一時的低迷から回復に向かうと予想され、年末商戦に期待が持てる。
	変わらない	百貨店（売場主任）	・前年は暖冬で防寒商品の動きが鈍かったものの、暖冬のみが要因ではなく、客の購入姿勢が変化してきた表れだと感じる。前年の反動で、今年は期待できる要素はあるものの、インバウンド消費が落ち着き、株価低迷で高額品の勢いにも期待できないほか、客の消費意欲も決して良いとはいえない。
		百貨店（販促担当）	・3か月予報では、10月の気温は高く、12月は低くなる見通しである。気温が早めに下がらなければ、防寒ファッションに影響が出る可能性がある。全体としては、消費機運が高まる要素があまり見当たらず、現状と同様に厳しい状況が続くと予測される。
		百貨店（服飾品担当）	・秋物の立ち上がりの売上状況をみて、防寒商材の最終の仕込みを各アパレルブランドやメーカーが行うが、先行きへの不安や、トレンドとなるデザインや素材も目新しさが無いため、生産量はかなり抑えられることが予想される。仮に気温の低下が冬に向けて徐々に進んだとしても、前半の落ち込みはカバーできない。
		スーパー（店長）	・気温が下がれば、秋冬商材はそれなりの動きになると予想されるが、更に良くなる要因はなさそうである。特に、衣料品は在庫処分による値下げが避けられない。
	くやなる悪	その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・アロマオイルマッサージのため服を脱ぐので、寒い時期になると来客数は減少する。
悪くなる	一般小売店〔花〕（店員）	・理由は分からないが、夏前よりも来客数が減っている。気温が下がってきたにもかかわらず、販売量が伸び悩んでいるため、これから先も販売量、来客数共に減少が予想される。	
企業動向関連	変わらない	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・気象庁の発表によると、今冬は久しぶりに寒さが厳しくなる。駅ナカでは、暖かい飲み物や防寒具、マスク、のどめといった冬物商材が売れることが期待されるが、インバウンド効果が徐々に薄れているため、全体としては前年並みといったところである。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 14			15			16																			
		月 8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9												
現状判断	近畿	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4	50.5	49.9	46.8	49.2	47.1	45.9	44.0	44.1	43.1	40.1	46.9	45.4	43.9
	(全国)	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6	49.3	47.5	48.2	46.1	48.7	46.6	44.6	45.4	43.5	43.0	41.2	45.1	45.6	44.8
先行き判断	近畿	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3	49.9	51.4	48.7	48.5	47.9	48.0	46.5	46.7	46.6	41.1	46.1	47.1	49.3
	(全国)	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9	48.2	49.1	49.1	48.2	48.2	49.5	48.2	46.7	45.5	47.3	41.5	47.1	47.4	48.5